

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2005-517036(P2005-517036A)

【公表日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【年通号数】公開・登録公報2005-022

【出願番号】特願2003-567389(P2003-567389)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 45/06

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 43/00

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 45/06

A 6 1 P 25/00 1 0 1

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月28日(2005.4.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ドーパミン、セロトニンおよび/またはノルアドレナリン系の異常によって惹起されるか、あるいはそれらの系の操作を介して処置することができる精神医学的および/または神経学的障害の処置のための製薬学的組成物の製造のための、ドーパミン-D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有する化合物または化合物の組み合わせ物の使用。

【請求項2】

該化合物または化合物の組み合わせ物がドーパミン-D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン作動性再取り込み抑制活性を有することを特徴とする、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

該化合物が1つの分子中に組み合わされたドーパミン-D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有することを特徴とする、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

化合物の該組み合わせ物がドーパミン・D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有することを特徴とする、請求項1に記載の使用。

【請求項5】

該化合物が1つの分子中に組み合わされたドーパミン・D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性を有することを特徴とする、請求項2に記載の使用。

【請求項6】

化合物の該組み合わせ物がドーパミン・D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性を有することを特徴とする、請求項2に記載の使用。

【請求項7】

主要なモノアミン作動性(ドーパミン、セロトニンおよび/またはノルアドレナリン)系の異常によって惹起されるか、あるいはそれらの系の操作を介して処置することができる該精神医学的および/または神経学的障害が、統合失調症および他の精神病性障害；気分障害、例えば双極性I型障害、双極性II型障害および小鬱病のような单極性抑鬱障害、季節的な感情障害、産後の鬱病、気分変調および大鬱病；パニック障害(臨場恐怖症を伴なうもの又は伴なわないもの)、社会恐怖症、強迫障害(OCD、共存性慢性チックまたは分裂型障害を伴なうもの又は伴なわないもの)、外傷後ストレス障害および広範な不安障害(GAD)を含む不安障害；物質使用障害(依存および濫用のような)および物質誘導性障害(物質中止のような)を含む物質に関連する障害；自閉障害およびRepetitiveness障害を含む拡大発展障害；注意欠陥および破壊的行動障害、例えば注意欠陥多動性障害(ADHD)；病的賭博のような衝動制御障害；神経性食欲不振および神経性過食症のような摂食障害；ツーレット疾患のようなチック障害；不休止脚症候群；認識、記憶および/または共存性精神医学的障害および神経更生(外傷後脳病変)の欠陥を特徴とする障害；からなる群から選ばれることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項8】

該組成物が統合失調症および他の精神病性障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項9】

該組成物が気分障害、例えば双極性I型障害および双極性II型障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項10】

該組成物が小鬱病のような单極性抑鬱障害、季節的な感情障害、産後の鬱病、気分変調および大鬱病の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項11】

該組成物がパニック障害(臨場恐怖症を伴なうもの又は伴なわないもの)を含む不安障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項12】

該組成物が社会恐怖症の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項13】

該組成物が強迫障害(OCD、共存性慢性チックまたは分裂型障害を伴なうもの又は伴なわないもの)の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項14】

該組成物が外傷後ストレス障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項1~6のいずれかに記載の使用。

【請求項15】

該組成物が広範な不安障害(GAD)の処置のために使用されることを特徴とする、請

求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 1 6】

該組成物が物質使用障害（依存および濫用のような）および物質誘導性障害（物質中止のような）を含む物質に関連する障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 1 7】

該組成物が自閉障害および Rett 障害を含む拡大発展障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 1 8】

該組成物が注意欠陥および破壊的行動障害、例えば注意欠陥多動性障害（ADHD）の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 1 9】

該組成物が病的賭博のような衝動制御障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 0】

該組成物が神経性食欲不振および神経性過食症のような摂食障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 1】

該組成物がツーレット疾患のようなチック障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 2】

該組成物が不休止脚症候群の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 3】

該組成物が認識、記憶および / または共存性精神医学的障害および神経更生（外傷後脳病変）の欠陥を特徴とする障害の処置のために使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 4】

ドーパミン - D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有する化合物、あるいはドーパミン - D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有する化合物の組み合わせ物を、投与のために適当な形態にすることを特徴とする、組成物の製造方法。

【請求項 2 5】

ドーパミン - D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有する化合物、あるいはドーパミン - D₂受容体部分アゴニスト活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性および場合によってはセロトニン再取り込み抑制活性を有する化合物の組み合わせ物を、投与のために適当な形態で含んでなる組成物。

【請求項 2 6】

該ドーパミン - D₂部分アゴニスト活性が、本質的に、フォルスコリン誘導 [³H] - cAMP 蓄積の阻害において完全アゴニストの活性の 20 % ~ 60 % であることを特徴とする、請求項 1 ~ 2 3 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 7】

該組成物が、イン・ビボ微小透析実験においてドーパミン - D₂部分活性ならびにセロトニンおよび / またはノルアドレナリン再取り込み抑制活性を同時に示すことを特徴とする、請求項 1 ~ 2 3 のいずれかに記載の使用。

【請求項 2 8】

該組成物が、イン・ビボ微小透析実験においてドーパミン - D₂部分活性およびセロトニン再取り込み抑制活性を同時に示すことを特徴とする、請求項 1 ~ 2 3 のいずれかに記

載の使用。

【請求項 29】

該組成物が、イン・ビボ微小透析実験においてドーパミン-D₂部分活性およびノルアドレナリン再取り込み抑制活性を同時に示すことを特徴とする、請求項1～23のいずれかに記載の使用。